

世界レベルの研究基盤を構築するための大学ファンドの創設

(国立研究開発法人科学技術振興機構出資金)

(新 規)

資料4



文部科学省

※令和3年度財政投融资当初計画額として4兆円

令和2年度第3次補正予算額 5,000億円

【背景・事業概要】

- 近年、米中をはじめとして世界的技術覇権争いが深刻化。更に新型コロナウイルス感染症に伴い世界秩序の転換期を迎え、世界各国は、異次元の科学技術・イノベーション投資を計画している。
- 世界トップ大学は、経営体としての体制を整備するとともに、寄付と産学連携（特許収入やベンチャー投資を含む）が混然一体となって巨額の基金を保持・その運用によって経営基盤を強化しつつ、優れた研究開発や人材育成を行っている。
- 我が国も、世界の競争に乗り遅れることなく、存在を示していくため、イノベーション・エコシステムの中核として役割を果たすべき研究大学等への投資を拡大させ、世界レベルの研究基盤を構築するための仕組みを実現する。

【事業イメージ・具体例】

10兆円規模の大学ファンドを創設し、その運用益を活用することにより、世界に比肩するレベルの研究開発を行う大学の共用施設やデータ連携基盤の整備、博士課程学生などの若手人材育成等を推進することで、我が国のイノベーション・エコシステムを構築する。

具体的には、

- 世界に伍する規模のファンドを運用し、その運用益で博士課程学生などの人材育成含む長期的・基盤的な研究開発基盤の構築を支援。
- 大学改革を進め、経営体として準備が整った大学が、国内外の「競争環境」下で、経営体として自立し世界に伍する研究大学に成長していくための真のイノベーション・エコシステムに変革するための仕組みを構築。

<国民の命と暮らしを守る安心と希望のための総合経済対策（令和2年12月8日閣議決定）（抄）>

特に、10兆円規模の大学ファンドを創設（※1）し、その運用益を活用することにより、世界に比肩するレベルの研究開発を行う大学の共用施設やデータ連携基盤の整備、博士課程学生などの若手人材育成等を推進することで、我が国のイノベーション・エコシステム（※2）を構築する。本ファンドへの参画に当たっては、自律した経営、責任あるガバナンス、外部資金の獲得増等の大学改革へのコミットやファンドへの資金拠出を求める（※3）とともに、関連する既存事業の見直しを図る。本ファンドの原資は、当面、財政融資資金を含む国の資金を活用しつつ、参画大学や民間の資金を順次拡大し、将来的には参画大学が自らの資金で基金の運用を行うことを目指す。財政融資資金については、ファンドの自立を促すための時限的な活用とし、市場への影響を勘案しながら順次償還を行う。安全かつ効率的に運用し、償還確実性を確保するための仕組み（※4）を設ける。

国立大学等における最先端研究基盤等を整備するとともに、博士後期課程学生の処遇向上とキャリアパスの確保を一体的に行う大学を支援するほか、若手研究者等が研究に専念できる環境を確保し最長10年にわたり支援を行う制度（創発的研究支援）の対象人数を拡充する。

・世界レベルの研究基盤を構築するための大学ファンドの創設<財政投融资を含む>（内閣府、文部科学省）

（※1）大学改革の制度設計等を踏まえつつ、早期に10兆円規模のファンドの実現を図る。

（※2）生態系システムのように、それぞれのプレイヤーが相互に関与して、自律的にイノベーション創出を加速するシステム。

（※3）参画大学の指定等のため、必要な制度改革の検討を進め、速やかに結論を得る。

（※4）適時開示の趣旨を踏まえ、運用状況を適切な頻度で検証する態勢を整備し、運用状況が一定の間、一定程度を下回る場合には、運用の停止や繰上償還等を含め、運用の見直し等を行う旨を法律に規定するなど、所要の措置を講ずる。

10兆円規模の大学ファンド(仮称)の創設について

R2補正予算 : 5000億円
R3財投当初計画額 : 4兆円

現状とファンド創設の狙い

■ 博士課程進学者の減少、若手研究者はポストが不安定

■ 世界トップ研究大学との資金力の差が拡大の一途

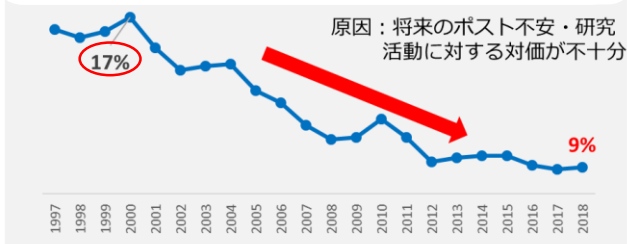
ハーバード大(約4.5兆円)、イエール大(約3.3兆円)、スタンフォード大(約3.1兆円)、ケンブリッジ大(約1.0兆円)、東京大学(150億円)

■ 研究力(良質な論文数)の低下

□ 大学の**長期・安定的な財政基盤を抜本強化**
⇒人材、研究インフラなど将来の研究基盤を強化

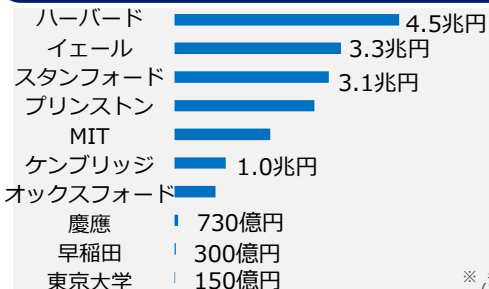
□ **世界トップ研究大学を目指し、「経営体」として生まれ変わる大学への大改革、イノベーション・エコシステムの構築**

博士進学率の減少

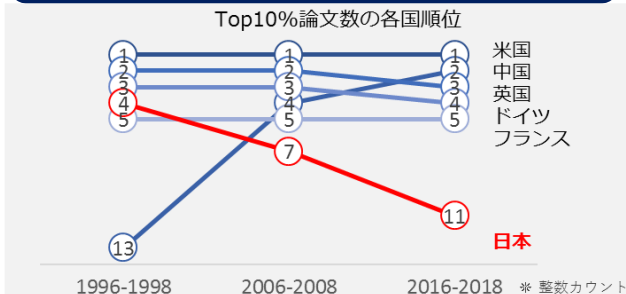


※ 修士課程修了者に占める博士課程進学者の割合

欧米主要大学との基金規模の拡大



研究力に関する国際的な地位の低下



我が国の研究基盤の抜本強化に向けて

- 世界に伍する研究大学への成長支援
- 研究基盤である「人材」の確保
- 世界レベルの研究拠点の強化

制度概要

□ 運用の基本的な考え方

政府(主務大臣)による基本的な指針策定、長期的な観点からの基本ポートフォリオによる**分散投資**の実施

□ ガバナンス体制の強化

JSTに**運用業務担当理事、運用・監視委員会**を設置

□ リスク管理

万一計画の達成の見込みがない又は未達成であれば、**リスク運用の停止や繰り上げ償還等を含む抜本的な改善計画を策定・実施**

